

国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本国語の誕生と古事記： 改新期の言語統一事業の視点から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-10-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川西, 孝男 メールアドレス: 所属: 京都大学
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000579

写

日本国語の誕生と古事記 —改新期の言語統一事業の視点から—



国立国語研究所主催：Evidence-based Linguistics Workshop
2025

2025年9月16日ポスター研究発表 於：当研究所内
川西孝男（京都大学）

禁

目次（構成）

- | | | | |
|---|-----------------|-------------|------------|
| 1 | ポスター発表標題 | 9 | ⑤記紀の文体（冒頭） |
| 2 | 目次（構成） | 10
書き | ⑥古事記の読み方指示 |
| 3 | アブストラクト | 11
セス I | ⑦国語統一事業のプロ |
| 4 | 謝辞 | 12
セス II | ⑧国語統一事業のプロ |
| 5 | ①日本周辺と海流 | 13 | 結語 I |
| 6 | ②標準語と方言 | 14 | 結語 II |
| 7 | ③大化の革新と中央
集権 | 15 | 参考文献 |
| 8 | ④革新と「言語政策」 | 16 | 参考：太安万侶 |

Abst.

- 古事記は、日本神話と解釈される。日本書紀本記では、日本神話と日本紀の解釈が混在する。古事記は、日本書紀本記と並んで、日本神話の歴史的意義を示す重要な役割を担っている。
 - 天智天皇が主導し、天武天皇が後援した大化改新が、日本に大きな影響を与えた。この改革によって、日本は、中國の言語と文化を学ぶこととなり、これが、日本の言語と文化の発展につながった。
 - 古事記が日本国語の創世記となり、創世記の文化が、後世の日本社会に大きな影響を与えた。古事記は、日本人の思想文化や、日本文化の基礎となるものである。

謝辞

本研究ポスター発表は、

- 国立国語研究所における共同利用型共同研究
(B) 「日本における標準語と方言の歴史地理学的研究」
- 京都大学人文科学研究所における共同研究「中国社会経済制度の再定位」（現代中国研究センター）
- 東京大学大気海洋研究所における学際連携研究
(特定共同研究課題番号：JURCAOSIRS25-01)

の研究成果の一部を使用している。

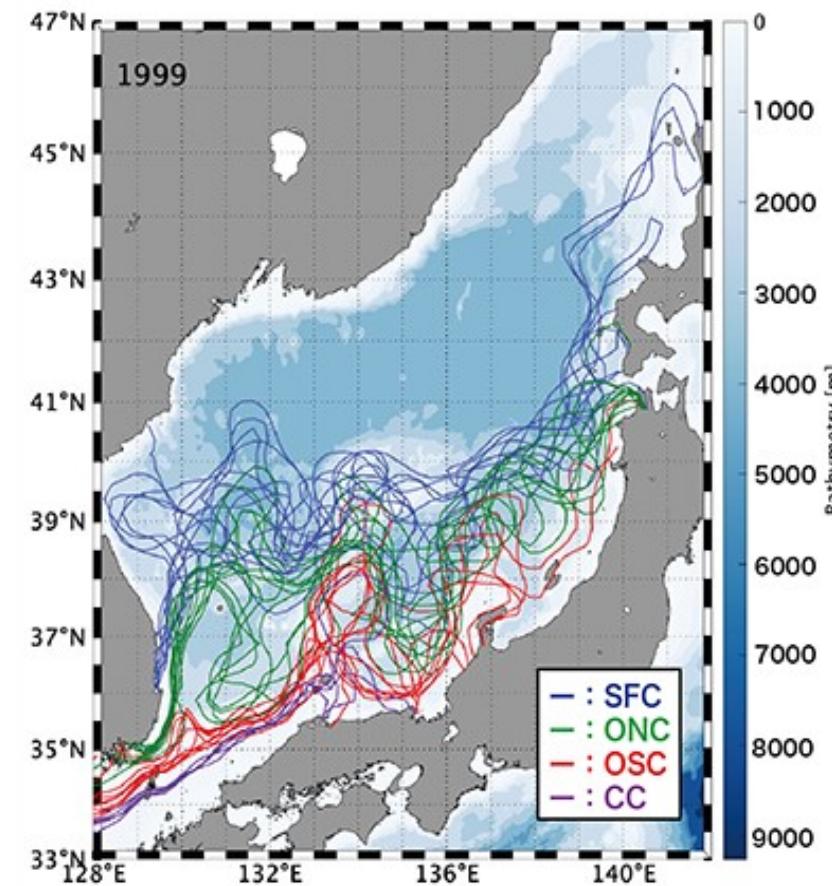


①日本周辺と海流



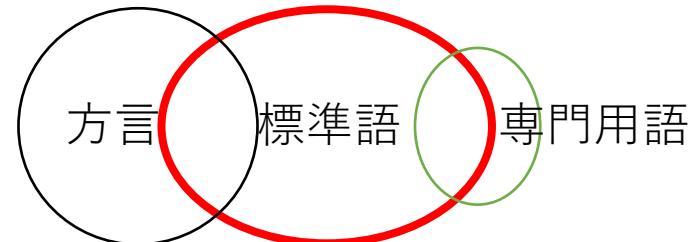
典拠：日本海学推進機構
(一部筆者編集)

[https://www.nihonkaigaku.org/kids/
relation/marukibune.html](https://www.nihonkaigaku.org/kids/relation/marukibune.html)



東京大学大気海洋研究所
[https://www.aori.u-
tokyo.ac.jp/research/topics/2021/2021060
8.html](https://www.aori.u-tokyo.ac.jp/research/topics/2021/20210608.html)

②標準語と方言



- **標準語（国語）**
- その国（日本）領土内で用いられる、意思疎通可能な言語として文字→全土で幅広く用いられ、政府から国民にまで行き渡ったもの（話し言葉、書き言葉がほぼ同一）
- 律令などの法律専門用語を駆使した文字、その領域にしか通じない言語・文字を除く
- **方言**
- 標準語以外の一定の地域、集団に伝わる言語・文字

③大化改新と中央集権

改新以前

- 日本人は話し言葉で意思疎通しており、文章（文字）を持たなかつた。→中国周辺民族も同様
- 中国から漢字（漢文）が伝来。
- ・5世紀頃までには漢文が中央政権で用いられ、公用文となる。6世紀頃に宮廷歌人たちによつて和歌（話し言葉）が万葉仮名で記録される。歌人たちは各地に赴き、当地で交流し、和歌を作つた。
- ・→当時公用語は首都が置かれた関西の言葉すなわち方言であり、関東方言が現在の公用語とも言える。→公用語は都の置かれた地周辺の言葉の影響を受ける。

改新以降

- ・天皇中心の中央集権体制→孝徳天皇（初めての元号「大化」を使用）
 - 改新の詔（大化2、646年）
 - ①公地公民制
 - ②国郡制
 - ③班田収授法
 - ④租庸調（税制）
- ・→日本語の統一は？
- ・→公用語→「日本」国語の統一事業の視点→この視点が欠落していた。

④改新と「言語政策」

- ・ 日本国語 = 「日本」「国語」
- ・ 「日本」（ニホン、ひのもと）の初現
- ・ 天武天皇・・・「日本」を国号とした最初の天皇。
- ・ （生年不明 - **686**）第40代天皇（**在位:673- 686年**）
- ・ 「古事記」（コジキ、ふることふみ）
- ・ **673年、天武天皇が即位し、『天皇記』や『国記』に代わる国史の編纂を命じた。**その際、28歳で高い識字能力と記憶力を持つ**稗田阿礼**に『帝紀』や『本辞』などの文献を「誦習」させた。その後、711年の元明天皇の命を受け、**太安万侶**が阿礼の誦習していたものを編纂し**712年に『古事記』を完成させた。**
- ・ →国史の完成とともに日本国語の標準化を図った。→宣命体

⑤記紀の文体（冒頭）

- ・古事記の冒頭
- ・**天地初發之時於高天原成神名天之御中主神**
- ・1.天地初めに発こりし時、高天原に神成りまし、名づけて天之御中主の神
- ・2.天地初めて發けし時、高天原に成れる神の名、天之御中主神 と日本の語り言葉的要素が強い。
- ・日本書紀冒頭
- ・**古天地未剖陰陽不分渾沌如鷦子溟涬而含牙**
- ・「古、天地いまだ剖れず、陰陽分れざりし。渾沌たるものと鷦子のごとくして、溟涬にして牙を含めり」と典型的な漢語調である。中国・朝鮮の日本滞在者が作成に関わったか。

天地初發之時於高天原成神名天之
御中主神。阿訓高下天云此高御產巢日。
孝男

⑥古事記の読み方指示書き

川西 孝男

神 訓高下天云
阿麻下效此

於高天原成神 天地初發之時

名天之御中主

- 続けて、【訓高下天云阿麻下效此】の(二段の)注がある。
- 高の下なる天を訓み、阿麻と云ふ。
下此に効ふ。
- これは「高つみえ」のねな下にさ」といふ。下にさといた書の阿いとせみインの天麻(いた書)といふ。この漢字はとな天皇編纂のドライアの本の天標書に天皇標準・古事記纂語が國力記である。
- 「天」の重要性→「天」(高天原)から「天」(天皇)の物語へ

⑦国語統一事業のプロセス I

日本国語統一事業と古事記の訓読み、和化漢字の伝播

写

太安万侶
稗田阿礼

天皇家（元明）

宣命（体）

宮中（歌会、宴）

洛中洛外（都周辺、宮廷行事、狩猟）

全国への公用語流布（宮廷歌人の全国行脚、天皇の隨行）

地方・民間での宮廷和歌文化の浸透と識字率の向上→
公用語・公用文の識字へ

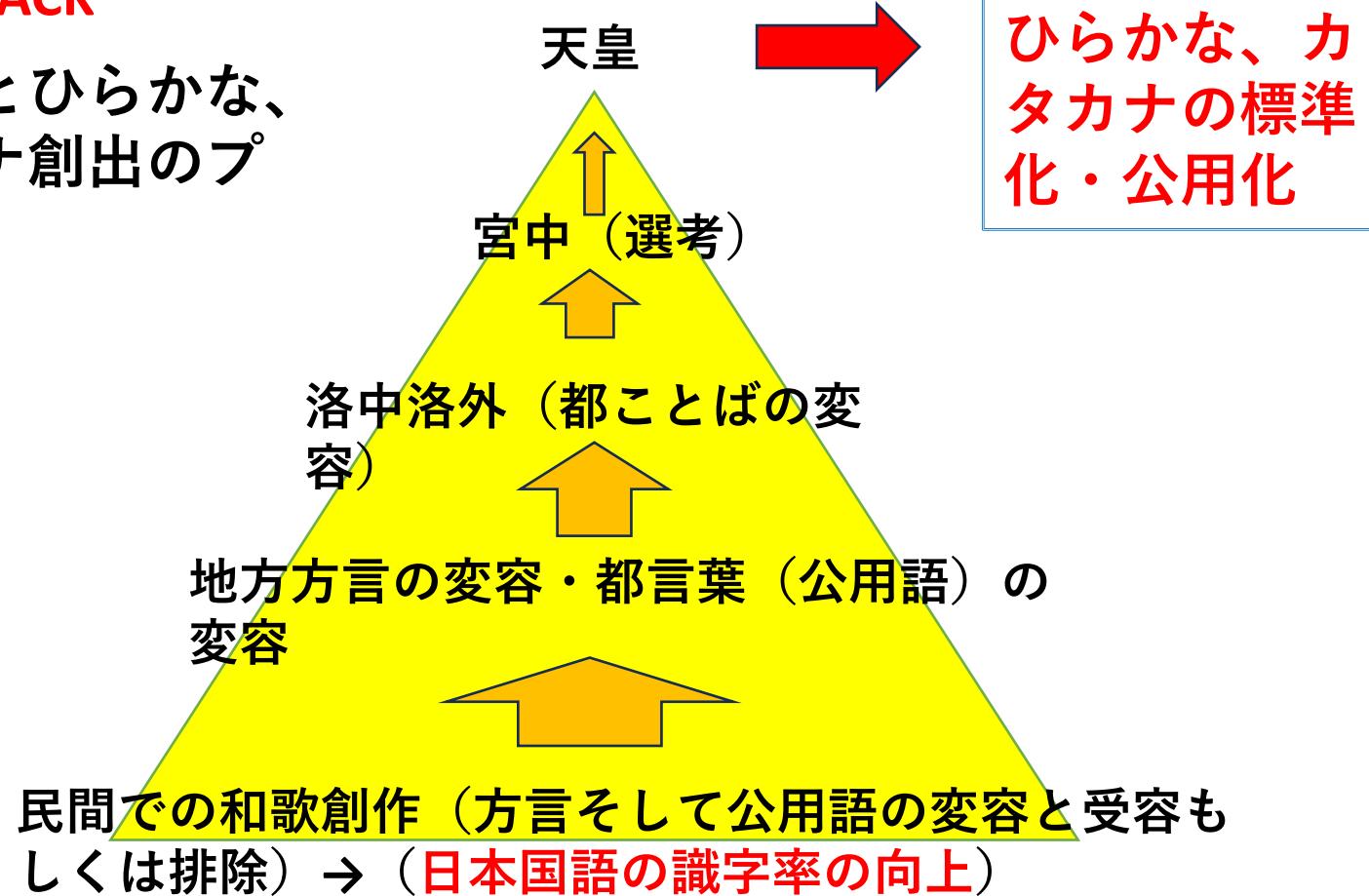
孝男

禁

⑧国語統一事業のプロセス II

FEEDBACK

萬葉集とひらかな、
カタカナ創出のプロセス

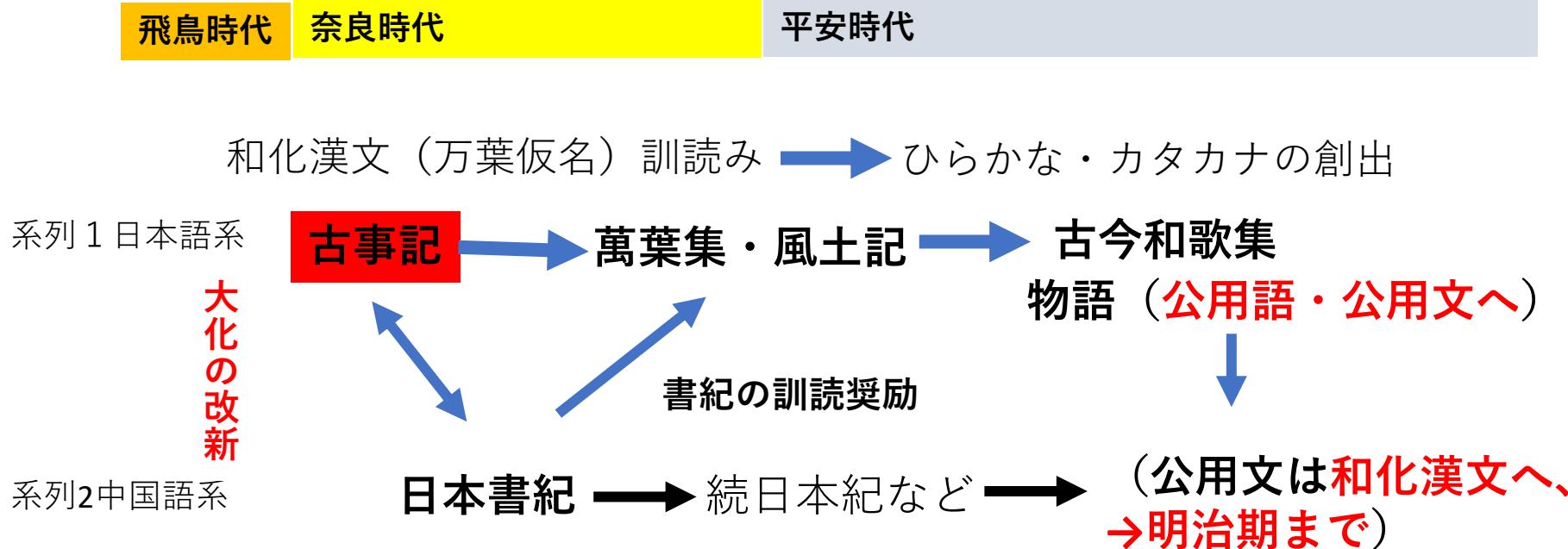


結語 I

写

日本語統一の時系列的方向性

時代



三

結語Ⅱ

- 古事記の太安万侶らによって漢語（漢音、漢字）が日本人の古語（話し言葉）と一体化され、日本国語が書き言葉として記される日本国による一定の指針が示される。（万葉仮名による読み方や書き方が定まり始め、宣命体となる）
- これは中央と地方による交流を通じて、平安時代にはひらかな、カタカナが創造（発明）され、古語がアジア社会の中心言語である漢語（漢音・漢字）に対応したものとなった。
- この一連の国語標準化政策は日本人の識字率向上や国際文化への認識を高めた。

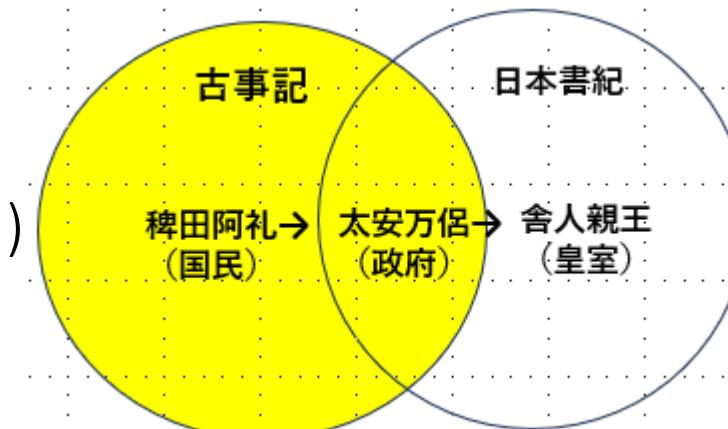
参考文献

- ・倉野憲司/武田祐吉校注『古事記 祝詞』、日本古典文学大系、1958
- ・坂本太郎ほか校注『日本書記 上下』、日本古典文学大系、1993
- ・小島憲之,木下正俊,佐竹昭広校注・訳『萬葉集』、日本古典文学全集、1971
- ・秋本吉郎校注『風土記』、日本古典文学大系、1993
- ・本居宣長撰、倉野憲司校訂『古事記傳1-4』、岩波書店、1940-
- ・神野志隆光『漢字テキストとしての古事記』、東京大学出版会、2007
- ・小谷博泰『木簡・金石文と記紀の研究』和泉書院、2006
- ・沖森卓也『日本語全史』、ちくま新書、2017

参考：太安万侶

(不明～養老7年7月6日 = **723年**8月11日)

- 和銅4年（711年）9月に元明天皇から稗田阿礼の詔諭する『帝紀』『旧辞書』を筆録して史書を編纂するよう命じられ、そして1月に『古事記』として天皇に献上（**古事記序**）。
- 太氏（多氏）一族の末裔・多人長は、安万侶が養老4年『日本書紀』の編纂にも加わったとした**[弘仁私記序]**。



- 1979年**（昭和54年）1月22日、奈良県立橿原考古学研究所は、奈良市此瀬町の茶畠から安万侶の墓が発見され、火葬された骨や真珠を納めた木櫃と墓誌が出土したと発表。
- 『左京四條四坊從四位下勲五等太朝臣安萬侶以癸亥年七月六日卒之 養老七年十二月十五日乙巳』

<完>